要領様式第２号

出張報告届

令和3年7月16日

吹田市議会議長様

会派名　民主・立憲フォーラム

代表者氏名　　山本　力

出張者氏名　　木村　裕

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出　張　先	早稲田大学大隈記念講堂・大講堂
期　　間	令和3年7月7日　から　7月8日　まで　2日間
出張の成果	別紙のとおり
備　　考	

吹田市議会事務局
3.7.16
受付

出張報告　2021.7.7～7.8　於；早稲田大学大隈講堂

全国地方議会サミット「改革から変革へ　デジタルで議会が変革する」

① 基調講演「チーム議会でデジタル変革を」
北川 正恭 （早稲田大学名誉教授／元三重県知事）

② 講演「地域におけるDX―自治体DX・住民接点DXから地域活性DXへ」
松本 良平 （NTTデータ　企画調整室長）

③ 特別講演「だれひとり取り残さない―デジタル庁の変革ビジョン」
平井 卓也 （デジタル改革担当大臣）

④ 議会セッション「オンライン議会の最前線と議会からのDX」
前田 将臣 （大阪府議会議員）、齋藤 久代 （取手市議会議長）、鈴木 太郎 （自由民主党横浜市会議員団団長）

⑤ 議会セッション
「『議会からの政策サイクル』の作動とチーム議会への変革―議会評価による検証を起点に」江藤 俊昭 （大正大学教授）、清川 雅史 （会津若松市議会議長）、川上 文浩 （可児市議会議員）、野澤　清 （日本生産性本部）

⑥ 講演「社会の変革とこれからの地方自治を展望する」
廣瀬 克哉 （法政大学総長）

⑦ 議会事務局セッション　「チーム議会における議会（事務）局職員のミッション」
吉田 利宏 （コーディネーター／元衆議院法制局参事）、清水 克士 （大津市議会 議会局長）、浜田 将彰 （墨田区監査委員・前区議会事務局長）、臼井 明子 （茅ケ崎市議会事務局次長補佐）

⑧ 講演　「議会改革度調査より 議会DX・多様な参加の最新トレンド」
中村 健 （早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）

⑨ メディアセッション
「映画『はりぼて』の現場から」
砂沢 智史 （チューリップテレビ 映画『はりぼて』監督）
「社会の変化とメディアからみる地方議会」
千葉 茂明 （コーディネーター／月刊「ガバナンス」編集主幹）、人羅　格 （毎日新聞社論説委員）、山下　剛 （朝日新聞記者）、杉田　淳 （NHK報道局 選挙プロジェクト 記者）、砂沢 智史 （チューリップテレビ 映画『はりぼて』監督）

⑩ 講演「社会の変革に対応する自治体と議会の役割」
片山 善博 （早稲田大学教授／元総務大臣）

⑪ 総括　「改革から変革へ　デジタルで議会が変革する」
北川 正恭 （早稲田大学名誉教授／元三重県知事）

参加での所見

はじめに①北川正恭氏（早稲田大学名誉教授・元三重県知事）の基調講演では、この度のコロナ禍では、密を避けるために議会活動の制限を余儀なくされた一方で、デジタル端末の導入が促進されるなど、改革を推し進める動きもみられたとの指摘があった。

中でも茨城県取手市議会においては、本会議のオンライン化を可能とするよう法整備を求める意見書を国に対して提出するなど、地方議会から国を巻き込んでいくなど、分権社会における民主主義の理想ともいえる動きが出てきているとのコメントがあり、デジタル化（DX）の推進には、議員個々人の活動だけでなく「議会活動」、すなわち議員間や事務局とも連携した議会の総体としての活動をさらに活発化させる必要がある。

そして首長と相互に独立した存在として機関競争を行っていくことが重要であるなど、議会の一員としてDXの推進にいかなる心構えで取り組むべきかという提言もあった。

また、③デジタル改革担当大臣の平井大臣をはじめ、地方議会・マスコミ・アカデミアから多くの方の登壇により非常に中身の濃いセッションがくりひろげられた。

④横浜市会の鈴木議員からの問題提起「住民の声を聴いて行政との橋渡しすることが重要な仕事になりがちだったが、デジタル化によってある程度議員がそこに絡む必要がなくなる。デジタル化後の地方議会はもっと本質的な政策をつくる立法機能が主な役割になる」という話は、現実的にはもうそんな時代だと私も思っている。

⑦墨田区議会事務局からは、議会基本条例に「議会事務局による提案」を盛り込み、これまでタブレット導入や傍聴規則の変更、休憩時ネット上での会議再開時刻の宣告など、数多くを提案し実現。積極的に「チーム議会」の一員として、議会事務局が主体的に議会改革に関わっている事例の報告があり共有された。

⑧早稲田大学マニフェスト研究所中村事務局長から「議会改革度調査より 議会 DX・多様な参加の最新トレンド」。

改革はreform、変革はtransformation。

業務プロセスや事業構造を抜本的に見直し組織そのものを変えていくこと。議会はその必要性を認識できてますか、との話には賛同できる。

続けてのパネルディスカッションでは、進行役から「議員と協働できる議会事務局になるには？」という問いかけがあったが、それぞれ「議員に信頼してもらえる関係性をつくること」「渦中に飛び込んできた経験」「先例・慣習に囚われない創造力。局長や次長がまずはその視点を」「職員の手によっても議会を変えられるんだという認識」という回答があり、いずれもごもっともという感想だった。議員ばかり注目されているが、それを実質的に支える議会事務局の役割はとても重要だと思う。

デジタル改革や地方議会 DX について、⑨富山県議会で起きた政務活動費不正使用のドキュメント映画を制作したチューリップテレビ担当 ディレクターのお話、大津市議会でのデジタル化の実践例など、多岐にわたる内容だった。

⑩元総務大臣の片山善博氏は全国一律の国頼りの政策から地域課題解決への自主的政

策の実現を考えようという提言もなされた。

コロナ禍によって、大きな変化を余儀なくされた社会のあり方や議会のあり方などが、デジタル改革やＤＸという切り口から様々な討論が繰り広げられた。

本市においても、他市と同様に変革が迫られていると思うが、そのような変革を成功に導くには、地方単独で考えるのではなく、今回のような全国規模のサミット参加者のネットワークをいかして多くの実践例や知恵を結集することが必要だとも思う。

サミットでは、これからの議会改革においては、デジタル化や DX がキーワードになるということを確信することができたが、同時に、それらが目的になってはいけない、あくまで手段のひとつであるということを意識することも忘れてはいけないことだと思った。